

四季と人生

— 木に学ぶ成長の法則 —

風香る皐月5月も終わり、水無月6月となり、木々の成長が日に日に感じる頃となりました。

木々の成長は、見る者に元気を与えてくれる誠に有難いものです。

日本は四季がはっきりとした国で、冬（厳冬）に植物は根を張り、春を待ちます。

そして春（青春）に春光をあびて、一気に葉を茂らせ、幹や枝を太くし、夏（朱夏）に花を咲かせ、秋（白秋）に実を实らせ、種子を育て、冬を迎えます。

こうした毎年繰り返される植物の成長を見ていると、人の一生も、かくの如くあらねばと毎年考えさせられます。

人の人生を、幼少年期（0歳～20歳）、青年期（20歳～40歳）、壮年期（40歳～60歳）、晩年期（60歳～）に分けるとした場合、幼少年期は心身を鍛える時期で厳冬期、青年期は、志を立て新たなことに挑戦し、知識、経験を積んで、自己を磨いてゆく時期で青春期、そして、壮年期は青年期に磨いた自己の知識、技能、経験を基に社会に貢献して、一つの分野で花を咲かせてゆく時期で朱夏期、そして晩年期は自らの体験や実績を通じて、後進を育てて次世代に繋いでゆく時期で白秋期。

こうした植物の一年の変化と人の一生が同じ様な法則で終始してゆくの理想の生き方だと思います。

木の成長の中で注意すべき「木の五衰」というものがあります。

1. 懐（ふところ）の蒸れ：枝葉が茂り、懐の風通しや日当たりが悪くなる。
2. 梢（うら）どまり：成長が止まる。
3. 裾（すそ）あがり：地面近くの横枝が枯れる。
4. 梢（うら）かれ：頭から枯れてくる。
5. 蠹（むし）つき：害虫が付く。

これら木の成長を阻害するのを未然に防ぐために手入れが必要な様に、人も、年を重ねてゆく上に、油断、慢心、おごり、怠惰、強欲といった誰にも生じ易いところの邪念を洗い流してゆく「洗心」の気持ちを失わない様にする必要があるようです。

今年も木々の成長を見ながら考えさせられています。

徳真会グループ
代表 松村 博史